



イギリスの学生たちと巡る東京一日旅

～はとバスツアーに体験して～

朝の東京は台風の影響で、はっきりとしない曇り空でしたが午後にはすっかり晴れ、まるで私たちの訪問を歓迎してくれているかのようなお天気に。

2025年7月14日、英語ガイド付きのはとバスツアーへ乗車。

コースは東京駅発→皇居→浅草→東京タワーという、東京の定番ながらも、歴史と文化がしっかり感じられるルートでした。

第一の目的地：皇居

バスはまず、かつての江戸城跡である皇居へ。

ガイドさんの説明では、皇居は1603年の江戸幕府の創設とともに徳川家の居城となり、明治維新後は天皇の居住地として整備されたことなど、江戸時代から現代にかけての歴史の変遷を分かりやすく紹介されていました。

皇居外苑では、立派な松の木を背景にポーズングして写真を撮ったり、「今は天皇様、皇后様がモンゴルに行っているから不在の時期なんだよね」といった会話も飛び交いました。

「日本人なのに、皇居ってちゃんと見るのは初めてかも」



そんな私のひとことに、「すごく自然があって、いいところだね」とうなずいてくれたイギリスの子がいました。

彼らの多くは、シェイクスピアが生きた田園地帯——ストラットフォード・アポン・エイヴォンの近くなど、自然の多い土地で育っています。

図 1 皇居外苑のクロマツ

だからこそ、都会のなかに静かに広がる皇居の緑や松の風景に、どこか懐かしさを感じたのかもしれません。



図 2 皇居外苑の楠木正成像

第二の目的地：浅草



浅草では、雨も上がり、青空が広がる絶好の観光日和に。仲見世通りの賑わいに、海外からの学生たちも興味津々。おみやげを眺めたり、食べ歩きをしたりしながら、日本の「日常のにぎわい」を楽しんでいました。

図 3 浅草散策中、
聞いているメンバー①

ガイドさんからは、浅草寺が仏教寺院であること、参拝の仕様が神社とは異なり、手は合わせるだけ（一方で神社では、二拝二拍手一拝）や、境内にある「二重塔」は釈迦の遺骨や仏像を納めるために建てられるものであり、宗教的・象徴的な意味を持つ建築であることが丁寧に説明されました。

おみくじを体験する人も多く、私は「大吉 Great fortune」を引いたのですが、「私は小吉 small fortune だったよ～」という声が聞こえ、ちょっぴり羨ましがられたりと、ちょっとしたチャームな会話も弾みました。（ちなみに、中吉 middle fortune, 凶 misfortune）



図 4 浅草散策中、
聞いているメンバー②

最後の「もう一度訪れたい場所はどこ？」という振り返りでは、「Asakusa!」という声がちらほら聞こえ、印象に残った場所になったのだと感じました。



最後は東京タワーへ

最後の目的地は東京タワー。高さ 333 メートルのこの赤い塔は、1958 年の開業以来、東京のシンボルとして親しまれてきました。

ガイドさんは、テレビやラジオなどの電波を中継するために建てられたことや、現在では東京スカイツリーにその役割を一部譲っていることなども説明してくれました。

展望台からの景色を楽しんだり、お土産を選んだり、それぞれ自由に東京の「空からの眺め」を満喫していました。



英語でのコミュニケーションで、自分の文化を再発見する

この一日は、ただの観光ではなく、文化が「伝わる」体験でもありました。

イギリスの学生たちにとっては、日本文化に触れ、感じる機会。私たち日本人にとっては、自国の歴史や伝統を英語で彼らへ説明することを通して、普段は気づかない価値を見直しながら「東京再発見」ができた貴重な一日となりました。